

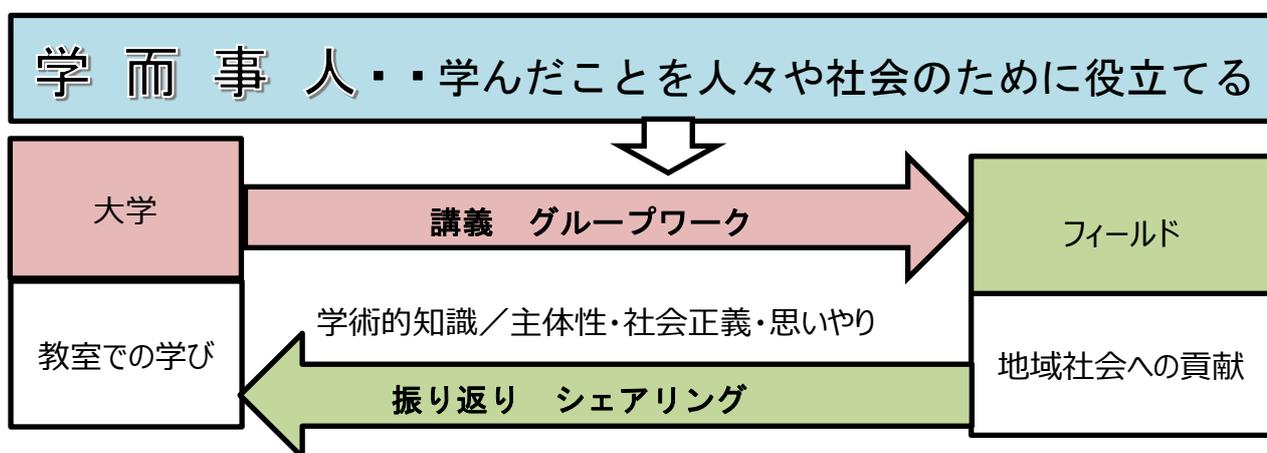
## V. 特記事項

### 1. サービス・ラーニング

本学の創立者・清水安三が学園のモットーとして掲げた「学而事人」。清水は、「自分のため」だけではなく、「助けを求める誰かのため」に学ぶ大切さを重視してきた。

サービス・ラーニングとは、地域での社会貢献活動（サービス）と学修活動（ラーニング）の実践を融合させた「学び」である。このサービス・ラーニングでは、授業で学んだ知識や理論を活用し地域社会での地域貢献活動を行っている。学生は、サービス・ラーニングでの学びによって、各分野の知識を深め、問題発見・解決能力のほか、コミュニケーション能力、協調性、リーダーシップを身につけ、人のためにどう役立てるかを考える力を身につける。まさに、モットーである「学而事人」を実践する学びである。

令和元(2019)年度のサービス・ラーニング科目は、合計 41 科目を用意している。



### 2. 地方と東京圏の大学生対流促進事業（地方創生支援事業費補助金）

地方圏と東京圏の大学が学生の対流などに関して組織的に連携すると共に、東京圏の学生にとって地方の特色や魅力などが経験できる取組を推進することで、地方への新しい人の流れを生み、地域に根差した人材の育成を図り、地方創生の実現につなげることを目的とした内閣府の事業である。

本学、名桜大学（沖縄県）、宜野湾市が連携して行う「桜の大学間交流が創り出す“インバウンド都市沖縄”振興プロジェクト」が、この地方創生支援事業費補助金（地方と東京圏の大学生対流促進事業）の対象事業に採択された。

沖縄の産業振興に向けた大学間交流を行い、日本一のインバウンド都市沖縄の担い手を輩出できるカリキュラム設計を両校で設け、沖縄の産業振興に貢献できる人材を送り出す。

本学と名桜大学は単位互換協定に基づく国内留学制度を利用し、特色ある授業やユニークな科目を提供し合うことで、学生は幅広い学問分野に触れて、視野を広げることができる。名桜大学の学生は、本学での学修機会を取得することで東京の事情にも精通し、学修経験を沖縄に還元する。本学の学生は、宜野湾市を中心に沖縄の歴史や文化などを現場で学修する短期プログラム（開講科目「地域社会参加（沖縄学入門）」内の沖縄現地研修）を履修することもでき、沖縄への興味・関心を広げ、卒業後の進路につなげていくことができる。